

駒澤大学 0 - 0 筑波大学

高さや強さが武器のヘディングでゴールを狙う巻。しかし点には至らなかった (撮影・野沢俊介)



首位浮上ならなかったが次節につながる試合内容!

決定力不足が課題!

2点以上の差をつけて勝てば、首位に踊り出ることの出来る大事な一戦。2点差でなくても勝った時点で勝ち点が並ぶため、いつも以上に気持ちが入る駒大イレブン。しかし、昨年の王者筑波の壁は厚かった。

この日平山が不在だったことはチャンスとなったが、キーマン藤本を起点に速いパス回しで攻撃を展開する筑波。一方の駒大は久しぶりのスタメン出場となる巻を中心に序盤から果敢にシュートを放つ。ゴール前での好機を幾度となく創るが決定力を欠き、得点に結びつかない。4分、フリーキックを得て宮崎のボールに巻がヘディングで合わせるが惜しくもバーを越える。そんな中20分、カウターを突かれ空いたスペースに藤本が飛び出る。良いタイミングでボールをもらうと落ちて着いてシュート。牧野のフライングセーブによって失点は免れたが、カウターにより何度か危ない場面を招いた。「フリーで持たせると良いボールが出る」と(廣井)というように藤本の存在は注意を要した。しかし、「ディフェンスが前から追っていたし集中していた」(八角)、「チームでディフェンスを頑張っていたのは良かった」と(桑原)というように安定した守備で封じた。

63分、田谷に代えて原を投入。赤巻をトップ下に向けて攻撃的布陣にするが一進一退の攻防が続ぎ、ネットが揺れることはない。両者が点が入らぬまま終了。終わってみると駒大は筑波の5倍の本数シュートを打っている。ペースは圧倒的に駒大が握っていた。牧野も「決めるところで決めていれば3、4点入っていたと思う」と語った。シュートの精度、決定力不足が大きな課題となった。

次節、前期最後の戦いとなるが首位浮上の可能性はまだ残っている。最後まで諦めない駒大サッカーで全力を尽くして欲しい。